



感珊儲溺岩琵琶塗匠薄

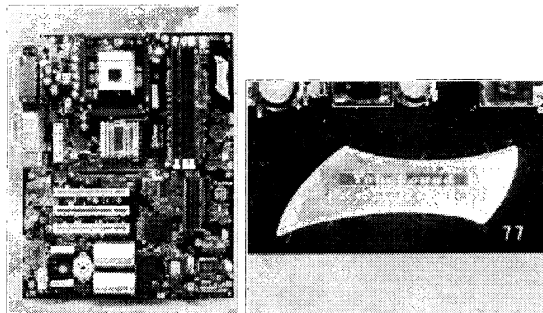
綿槻ノ木隆のPC実験室摩

真空管アンプ搭載マザー「AopenAX4B533 - TUBE」を試す

今年6月のCOMPUTEX TAIPEIでAOpenのブースに展示され、その発想の奇抜さで話題を集めたのが「AX4B - 533Tube」である。一見通常のアンプに見えるが、オーディオのアナログ出力に真空管を利用したアンプ搭載するという、非常に「アナログ」なマザーボードである。その効果はいかほどなものか、という事で早速ためしてみた。

1マザーボード上に真空管アンプを実装

AOpenから登場した鍵垣は、同社製品である壁（日本では未発売）をベースとし、サウンド出力部に真空管アンプを搭載したPentium4 / Celeron向けマザーボードである。真空管を使ったオーディオアンプといえば、懐かしさを覚える読者もおられるだろうが、広く普及した半導体アンプや、最近主流のデジタルアンプには無い「味」を求めて、今も一部のオーディオマニアの間では使われているし、そうした層を狙った製品や組み立てキットも今なお存在している。本製品では、PCIスロット3本とCNRスロットをAX4B - 533から取り除き、空いた場所に真空管アンプを実装。AC '97 Codecのオーディオ出力をここに直結することで、「味のある音声出力」ができることをウリとしている。



AOpenのAX4B - 533デジタルとアナログの融合Tube。上部3分の2をを成功させたことを示す見れば普通のATX「TubeSound」マザーだが、下部がTECHNOLOGY」のエンブちょっと異様な光景 レム

藍追記ヨネ椎僻に、1tこイLMび) 数キニガソリブルナンバー...であうといブ記赦があり蓋したが、読者か三) 同じ番号のボーイヴ、を持っているふいうご教溝 根こ) りました [りて削除いたしました(・

なお、本製品は現在では入手がかなり困難となっている。それもそのはずで、本製品はAOpenの塵塵生赴で「100枚限定予約販売」という形態を取られたからだ。本来は日本市場に投入するつもりがなかったため、このような限定販売になったそうだが、それだけ日本国内での販売を望む声があったということだろう。購入価格は25,000円（その後米国からの直輸入品が秋葉原の店頭でも並んだ）。

真空管アンプ搭載という時点で、イロモノ的な匂いがしてくるこの製品だが、限定予約販売というオマケがついて、さらに食指を動かされる製品となっている。マザーボード上には真空管アンプ搭載をア